

# 「倉敷市観光振興プログラム（第2期）～持続可能な観光先進都市・倉敷を目指して～」 （概要）

## 第1章 倉敷の観光振興の意義

### ◆これまでの取組（H28～R2年度）

#### 「倉敷市観光振興プログラム」策定（H28.3）

主な実績	○主要観光地の観光客数：H26 4,752千人 ⇒ R1 5,208千人
	○市内宿泊者数：H26 1,027千人 ⇒ R1 949千人
	○外国人観光客宿泊者数：H26 25,219人 ⇒ R1 76,534人

主な施策	基本施策：何度も訪れたいくなる倉敷の実現 ⇒ <b>倉敷ファンの獲得</b>
	○着地整備（観光資源開発・受入環境） ○連携推進（広域連携）
	○誘致宣伝（トップセールス・フィルムコミッション・教育旅行）

### ◆観光を取り巻く状況

- 旅行ニーズの変化と着地型旅行商品へのニーズの高まり
- 情報通信技術の革新に伴う情報流通ルートの多様化
- 国をあげての外国人観光客誘致と、外国人観光客数の動向
- SDGsへの世界的な取組
- 少子高齢化・人口減少に伴う旅行市場の縮小
- 新型コロナウイルス感染症を契機とした新しい生活様式による旅行スタイル

### ◆本プログラムの基本的な考え方

#### <計画期間>

令和3年度から令和7年度までの5年間

#### <基本施策>

持続可能な観光先進都市の実現 ⇒ 「稼ぐ力」を備えた魅力的な観光地域の実現

#### <施策展開の方向性>

- 「稼ぐ力」を備えた競争力の高い観光地域づくり
- 広域・都市間連携の推進
- 誘客プロモーション活動の積極展開
- 滞在満足度の高い受入環境づくり
- 外国人観光客の誘致

### ◆目標（基準年 R1 ⇒ 目標年 R7）

○市内主要観光地の観光客数（千人／年）	5,208	⇒	5,800
○市内宿泊者数（千人／年）	949	⇒	1,100
○外国人観光客宿泊者数（人／年）	76,534	⇒	115,000
○観光消費額（百万円／年）	49,263	⇒	55,000

## 第2章 倉敷の観光の現状と課題

- 観光入り込み客数がほぼ横ばい
- 「遠距離」からの来訪者が少ない
- 来訪者の滞在時間が短い
- 市内宿泊者数の伸び悩み
- 二次アクセス対策が不十分
- 欧米市場への観光プロモーションが不十分

## 第3章 観光振興に向けた施策展開

### 戦略1 競争力の高い魅力ある観光地域の形成

- 日本遺産やSDGsの視点など、新たな視点を用いた倉敷ならではの魅力を生かした着地型旅行商品の開発
- 歴史と伝統が息づく「ものづくり」をテーマとした産業観光や、倉敷の料理や食文化を体験できる取組の推進
- 歴史的建造物や芸術作品など、質の高い都市景観や文化財を生かした観光資源の開発
- 夜・朝型観光の推進による滞在時間の延長と観光コンテンツの多角化

### 戦略2 広域観光の推進

- 高梁川流域圏域の地域資源を活用した誘客事業の展開や広域観光ルート開発など、圏域観光力の強化
- テーマや目的に応じた近隣都市との連携や、新幹線・高速道路で繋がる県外都市との広域連携の推進
- 旅行会社や交通事業者等との連携による広域周遊型旅行商品の開発や二次アクセスの改善

### 戦略3 誘致・プロモーション活動の強化

- 旅行博や大規模商談会への出展や旅行会社の商品造成支援、映画やドラマのロケ地の誘致などの推進
- コロナ禍における県内及び近県へのオンライン等を活用した観光プロモーションの強化とリピーター化の推進
- 芸術文化・スポーツ等のイベントの活用や、観光イベントの魅力向上、魅力的な新規キャンペーンの実施等による通年型観光の促進
- 新たな学習体験プログラムの開発等による修学旅行誘致の推進や、コンベンション誘致推進とその体制の拡充
- 観光客の傾向や観光消費額などを捉えるマーケティング実施と、分析に基づいたプロモーション戦略の構築
- 新聞・雑誌・SNSなど多様な媒体を用いた、観光マーケティングに基づく効果的な情報発信の充実

### 戦略4 受入環境の充実

- Wi-Fi環境整備や二次アクセスの充実、心地よい施設づくりなど、回遊性を高める観光インフラ整備の推進
- 広域観光情報やニーズに則した案内ツールの提供など、観光客の満足度を高める観光案内機能の強化
- 市民一人一人のおもてなし力の向上や観光ボランティアの支援など、おもてなし人材の育成
- 災害時における観光施設の案内体制強化や、新しい生活様式への対応など、安心・安全で持続可能な観光地域づくりの推進

### 戦略5 外国人観光客の誘致拡大

- 市場の特性に応じた誘客プロモーションの展開と、海外メディアやSNS等の活用など、積極的な情報の発信
- 観光施設での多言語対応、ガイドマップや飲食店メニューの多言語化など、外国人観光客の受入態勢の充実
- デジタル・ジャパン地方連携事業を積極的に活用した、国や県、県外都市との広域連携による誘致活動の推進

【戦略横断的な視点】  
SDGsの推進／日本遺産の活用

## 第4章 観光振興プログラムの実現に向けて

### 1 各主体の役割

- 市・倉敷観光コンベンションビューロー・観光関連事業者・市民の各主体がそれぞれの役割を分担
- 市の役割は、持続的に魅力ある観光施策展開、国・県・周辺都市・観光関連団体等との連携

### 2 倉敷の観光振興を支える視点

- 各主体が一体となった観光振興の推進
- 推進体制の構築
- PDCAサイクルに基づく進行管理と評価